

DAITO ROTARY

OSAKA JAPAN

CLUB WEEKLY BULLETIN

第2660地区
大東ロータリークラブ

- 事務所
〒574-0046 大東市赤井1丁目2-10
ポップタウン住道本館4階
TEL: 072-875-1200
FAX: 072-875-0590
E-mail: office@daito-rc.org
http://www.daito-rc.org/
- 例会
毎週火曜日 12時30分~1時30分
〒574-0076 大東市曙町4-6
大東市民会館 4階「大会議室」
TEL: 072-871-0001

◆4つのテスト◆

言行はこれに照らしてから

- ① 真実かどうか？
- ② みんなに公平か？
- ③ 好意と友情を深めるか？
- ④ みんなのためになるかどうか？



ロータリーは機会の扉を開く

- 創立 1967年12月26日
- 会長 佐藤 多加志
 - 幹事 東村 正剛
 - 広報委員長 森田 武雄
(会報)

大東ロータリー会長テーマ

「ロータリーの機会はであい から」

2020年~2021年度
国際ロータリーのテーマ

ロータリーは機会の扉を開く

国際ロータリー会長
ホルガー・クナーク

令和3年1月12日発行

No.2521 2021.12.15 (No.2520) の例会記録

今週の予定 (1月12日)

例会臨時休会

次週の予定 (1月19日)

例会臨時休会

先週の例会報告

◆ 出席報告 (12月15日分)

臨時休会

前々回12月8日分

臨時休会

お知らせ

- ・1/12 年男卓話
- ・1/19 例会臨時休会
- ・1/26 例会臨時休会
- ・1/30 地区補助金セミナー (ZOOM開催)



ニコニコ箱

後面に記載

今期累計	464,000円
年間予算	2,200,000円
達成率	21.09%

会長の時間

皆さん、こんにちは。

先週 12 日に第 2660 地区大会が国際会議場で開催されました。これまでと違いコロナ禍での開催で一日、短時間開催、主幹クラブ地区役員のみでの開催となり我々クラブ会員は WEB 視聴での参加となりました。

大会決議も上程のみで「決議」は後日、電子投票決議となりました。感染状況が悪化したため、急遽次第変更となり止む得なかったと思います。しかし、今年は経験の無い大変な年でした。

一昨日、台湾雙溪 RC よりコロナのお見舞いと雙溪 RC30 周年式典・姉妹締結年度の相談がありました。2021 年 3 月に式典開催予定でそのころに環境が変わっていたら是非参加したいという思いを伝えましたが、かなり厳しいと思います。

WEB Zoom 等での参加となりそうです。

今月は「疫病予防と治療月間」です。2014 年 10 月 RI 理事会は、12 月を重点分野：「疾病予防と治療月間」とした。地域社会の医療従事者の能力向上、伝染病の伝播を食い止め、非伝染病とそれによる合併症を減らすための、疾病予防プログラム、地域社会の医療インフラの改善、疾病の蔓延を防止することを目的とした、地域住民への教育と地域動員、疾病またはケガによって引き起こされる身体障害の予防、疾病予防と治療に関連した仕事に従事することを目指す専門職業人のための奨学金支援を強調する月間であると定めています。まさに、現環境下 (COVID-19) に相当するのではないのでしょうか。

この様な、100 年に一度と言われる疫病が発生する事を「予知」することは困難ですが備える事は今回の事で思い知らされました。医療従事者の不足や卑劣な環境での従事など、今回の事を教訓に我々も、個々の支援への取り組みと学びを学び実行していかなければならないと思います。

今は、「何とかして欲しい」「脱したい」という思いでしょうが、医療従事者の方々は「何とかしなくては」「脱するには」と懸命に日々邁進されています。

我々メンバーとして、今すぐできる事は「感染しない」「感染させない」事が責務と考えます。「何とかして欲しい」「脱したい」為にも、辛抱の時期を耐えて乗り越えていきましょう。

今は、技術が発達し、情報交換コミュニケーションも様々な方法で可能です。一人だと息詰まる事も多いですが、多分にあるコミュニケーションツール等を用いて仲間と語り相談し新たな機会を求めましょう。

本日も、新たな気づきと出会いの場となる事を願い会長の時間と致します。

有難うございました。

「前期を省みて」

会長 佐藤 多加古志

率直に何も出来ていない・出来ない 歯痒い半期でした。予定者段階から必須の PETS も WEB での研修で会長として 7 月より重責を担う事となりましたが、何事につけ「暗中模索」でした。『ロータリーの機会はであい から』と方針を述べさせて頂いたのですが「であい」の場である例会が中止状態でなかなか厳しい状況で前期を終えました。3 月にはロータリーデーもこれまでと違った施行で当クラブが主幹となっています。皆様のご協力をお願い申し上げます。まだまだ、環境は変わることなく厳しい状況続くと思われます。この環境下での新たなスタイルを構築し後期に望みたいと考えています。

クラブ奉仕委員長 橋本 正幸

クラブ奉仕委員会は、会員増強委員会などの小委員会を統括する委員会ですが、コロナ禍により例会の開催も異例の開催となり各委員会の活動もできないまま前期を終えることとなりました。当委員会では、会員増強を重要なテーマと掲げさせて頂きました。私自身例会や親睦に参加できなかったことから、会員との交流ができず各委員会の活動の現状を把握することができませんでした。後期はコロナ禍も収まり正常なクラブ活動になることを祈り、クラブの管理運営に努めたいと思います。

職業奉仕委員長 谷中 宗貴

‘After/with COVID-19 な時代’が続いています。弊社はリモートでは動かすことができない業種ですので、この時合いを乗り切り、意気自如な体制を維持するため、通常通り業務を進めるうえでの担保を整えることが急務でした。感染のリスクに対し、感染しないための基本ルールを設定し掲示しました。マスメディアなどの情報から選別し、あくまで経験に基づくものとの兼ね合わせではございますが、‘インフルエンザに感染しないために’と同様の対策に加え、とにかくシンプルに 3 密を回避することを謳いました。現場の安全対策と同じく ‘すぐに、誰

もが、単純な動作で’できることが、即効性ある感染予防につながると捉えたからです。感染予防マスクについては当初入手困難な社会情勢でしたが、日頃のお付き合いのなかで早い段階で入手することができましたので、従業員全員とその家族、弊社に出入りする可能性のある協力業者全員が毎日交換できる数を毎月配布いたしました。当初不安を感じていた事務職などは交代等での勤務を許可しましたが、社内で勤務することも自宅同様で安心であるという認識が得られた段階で全員平常出勤に自らの意志で戻りました。もちろん社内は換気の徹底、デスク、パソコンなど各自の身の回り、車両、休憩場など人が立ち入る場所全てを日常的に消毒しています。

従事する現場に関しては、ほぼ全ての現場で入場前の検温、マスク着用等が義務付けられていますので、また、現場事務所などでの感染は耳にしますが、他業種作業員含め数多くの作業員の集まる朝礼場、現場作業エリアでのクラスターはルールが遵守されているのか、聞き及ぶ限りは約10か月経た現状でも確認されておらず、その事実により、換気と3密回避、そしてそれを守る一人ひとりの意識と所作が感染防止の要であると推測し実感しております。無論日頃、所作に疑問を感じる従業員に対しては顔を見るたび声掛けし意識喚起しております。

客先との現場打ち合わせ、会議、摺合せ等（もちろん安全衛生協議会など大人数の集まる会議等はリモート実施ですが）に関しましては、弊社現地現物主義の業態であり、それを怠ることは即座に危険と直結することと心得えておりますので、また、そのことは客先にも十分に理解していただいておりますので（理解していただけないお仕事はお断りしています）、やはり換気をして3密回避、かつ広い空間、屋外などより安全な場所で互いに意識しながら実施させていただいております。家庭での‘巣籠り’は非生産的です。要は職場と現場を家庭同様‘巣籠り’と同じ状態にすればよいと考え、実践してきましたが、現状は感染者ゼロということで乗り切ることができました。

意気自如では不安全。外に出て、人と合い、人とともに働くしかない業種。それは社会にとって不可欠な貢献できる企業である証。誰かに施されるのではなく自分の力で生活するという誇り。このことを従業員に再認識してもらうことができたことはひとつ一定の水準の効果を得たと信じます。綺麗ごとを盾に‘あくまで保障とセット’と吠え‘本業がだめなら副業で’感覚のいわゆる‘一人親方さんの’が蔓延っていることはまだまだ将来への不安を煽りますが、以上、職業奉仕委員長としての中間報告とさせていただきます。

本年度、社会奉仕委員会としては、新型コロナウイルス感染拡大に伴う社会情勢を考慮し、地区補助金を申請し、『新型コロナウイルスと日々戦う医療従事者へ感謝と支援を』と題し、医療法人徳洲会 野崎徳洲会病院に対する感染症対策用簡易折り畳み式ブース（陰圧型）の寄贈を行いました。寄贈先では、いまだ切迫する医療現場の現状をお聞きし、あらためて、医療従事者の方々への感謝の気持ちを強くするとともに、一人一人が自覚を持ち、できる限りの感染対策を行うことが必要であることを感じるとともに、寄贈品により救われる命が一つでも増えることを願います。また、本年度は、新型コロナウイルスの流行により予定されていた事業の中止や縮小が相次ぎました。毎年行っておりました大東市立子ども発達支援センターへの寄贈につきましても、引き続きを行うことができましたが（本年度は佐藤会長のご厚意により実施させていただいております。）、夏祭り、運動会、クリスマス会への直接の慰問は中止となり、子ども達の笑顔を間近で見れなかったことは残念でなりません。後記には、新型コロナウイルスの流行が終息し、例年通り、事業を行うことができるようになることを願いますとともに、引き続き、多くの会員の皆様にご支援賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

『本年度の事業内容』

- 7月 1日 大東市立子ども発達支援センター夏まつりへの飲み物の寄贈
- 9月 7日 バッジ募金へ参加、大東市福祉協議会へ寄付（佐藤会長）
- 9月25日 野崎徳洲会病院への感染症対策用簡易折り畳み式ブース（陰圧型）の贈呈式 病院側から感謝状を頂きました。

- 10月14日 大東市立子ども発達支援センター運動会へのお菓子の寄贈
- 12月 8日 大東市立子ども発達支援センタークリスマス会へのお菓子の寄贈
- 12月 歳末募金へ参加、大東市福祉協議会へ寄付（佐藤会長）

『新型コロナウイルスの影響により中止となった事業』

- 大東市民まつり 盆踊り警備
- 秋の全国交通安全運動早朝街頭キャンペーン
- 社会奉仕委員会夜間例会

本年度前期を振り返りますとコロナ禍で例年行われているクラブ国際奉仕委員長会議はWEB開催で出席をした内容としまして、今年度の新国際奉仕委員長になったものの、どのように活動すればよいのかわからない、何か国際活動のヒントが欲しい等、今更聞けない内容を、地区のみんなで聞いてみよう というものでした。これまでに国際奉仕委員長を経験された方々に、ご自身の活動経験をお話を聞いたので、大東ロータリークラブの国際奉仕委員長として何ができるかということを考えていかなければならないと思う講演でした。WCS事業について、本年度は台北雙溪RC側で行われました。事業の内容として補導相談室改装と貧困家庭の学生援助で当クラブとしては、寄付金を拠出したしました。残りの後期も台北雙溪RCとは、交流、連携、相互理解を深めて参りたいと思っております。会員皆様のご協力をよろしくお願い致します

青少年奉仕委員長 柿木 篤

今期も前年度に引き続き、青少年健全育成を目的とした継続事業として、第41回大東ロータリークラブ旗杯争奪少年野球大会と第15回大東市小中学校弁論大会が執り行われました。野球大会におきましては、試合中も円陣や声出し、応援など細かいガイドラインがあり、試合の雰囲気は昨年と比較すると少し寂しい感がありましたが、一生懸命プレイをしているこども達の一喜一憂する姿をみることができ、この大会が無事開催され本当に良かったなとうれしく思います。また弁論大会におきましては会場内は保護者、学校関係者、来賓のみと例年とはうってかわって寂しい弁論大会となりましたが、出場された皆さん一人一人立派に「弁論」され、話し方もさることながら内容も大人顔負けの国語力を感じることができました。次年度以降もこどもの成長を感じさせるこの二つの事業を引き続き支援頂きます様よろしくお願い致します。最後に次年度はコロナが落ち着いて、普通の環境でこの二つの事業が執り行われることを祈念いたしまして、前期の振り返りとさせていただきます。

幹事 東村 正剛

本年度は、新型コロナウイルス環境下のクラブ運営規定を予定者段階で理事会にて承認していただき、例年とは違った形で運営せざるを得ない状況となりました。7月の一回目の例会を開催することが出来ましたが、その後は大阪府新型コロナ

警戒信号が黄色となり、運営規定通り臨時休会となり、その後はその運営委規定を改定し、例会の設えをスクール形式に変更しコロナ感染防止対策を行い、10月13日に例会を再開しました。しかし、11月になりコロナが拡大しはじめ、また臨時休会となりました。そのため、例会を開催できたのは残ながら計5回でした。また、長年事務局員として勤めてこられた村本事務局員さんが一身上の都合により退職ということとなり、急遽事務局員を募集しなければならなくなり、コロナ禍で臨時休会、理事会を通常開催することが出来ず、インターネットでの理事会開催となり、慣れない議事進行に理事の皆様のご理解とご協力を頂き、なんとかこれまで無事に理事会運営も出来、そして新しい有能な事務局員さんの本田さんを採用することができました。また、事務局のパソコンにロータリークラブ専用一元化ソフトを導入し、今後の事務局の事務局作業の合理化と今後の事務局の引き継ぎやデータベース化が容易になるようにしました。また、輪番制により第2660地区第3組のロータリーデー（3月6日開催）のホストが大東RCとなり、田川直前会長を実行委員長とし、その準備に追われた前期となりました。また、昨年度より継続となっています戦略委員会（田川委員長）においては、クラブビジョンの策定も出来、会員増強向けのリーフレットの製作打ち合わせをさせて頂き、あとは理事会の承認を頂くだけとなりました。このコロナ禍の状況はまだまだ続きそうです、会員の皆様と直接例会でお会いすることができないかもしれません。本年度、佐藤会長が掲げました「ロータリーの機会は であいから」のスローガンのもと、である機会を奪われた団体に何が出来るのか、下半期は幹事として運営について模索していきたいと思えます。皆様には、引き続き深いご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

